## 中学校における柔道の負傷事故に関する研究 - 負傷事故の傾向と特徴からの安全対策 -

Study on injury accidents in judo at junior high school
Safety measures devised from the trends and characteristics of injury accidents in judo

藤澤健幸 成蹊中学校 Takayuki Fujisawa Seikei Junior High School

キーワード:中学校,柔道,授業,部活動,負傷事故,安全対策

Key words: junior high school, judo, a class, club activities, injury accidents, safety measures

## [抄 録]

近年、内田が中学校における柔道の死亡事故と障害事故の実態を明らかにしている。だが、最も多い負傷事故については未だ明らかになっていない。そこで、本研究では中学校における柔道の負傷事故についてその現況を明らかにするとともに、その負傷事故の傾向と特徴を考察し、柔道の安全対策について検討することを目的とした。研究方法は 2009 年度から 2013 年度までの中学校における柔道の「授業」及び「部活動」を対象とし、それぞれの負傷事故の発生状況、種類、部位について調査した。主な結果を以下に示す。

柔道の授業の負傷事故件数は21,526件であった。学年別の負傷事故件数は2年生8,403件、3年生7,144件、1年生6,015件の順であった。男女別の負傷事故件数は男子17,474件、女子4,088件であった。負傷事故の多かった上位3種類は骨折7,946件、挫傷・打撲6,794件、捻挫5,556件の順であった。負傷事故の多かった上位3部位(部位中負傷事故件数第1位)は下肢部8,568件(足・足指部5,534件)、体幹部5,109件(肩部1,991件)、上肢部4,445件(手・手指部2,215件)の順であった。

柔道の部活動の負傷事故件数は 32,013 件であった。学年別の負傷事故件数は 2 年生 13,066 件、1 年生 12,535 件、3 年生 6,412 件の順であった。男女別の負傷事故件数は男子が 25,009 件、女子が 7,004 件であった。負傷事故の多かった上位 3 種類は骨折 12,756 件、捻挫 8,466 件、挫傷・打撲 7,827 件の順であった。負傷事故の多かった上位 3 部位 (部位中負傷事故件数第 1 位) は下肢部 12,442 件 (足・足指部 5,614 件)、上肢部 8,538 件(手・手指部 3,581 件)、体幹部 8,211 件(肩部 4,905 件)の順であった。

以上の結果から、中学校における柔道の負傷事故は「授業」と「部活動」では発生状況、種類、部位には相違点や共通点が見られることが明らかになった。これは柔道の「授業」と「部活動」の活動の頻度、運動負荷、形態などの内容が異なるためであると考察された。以上の考察から柔道の「授業」と「部活動」のそれぞれの安全対策について検討し、以下の結論が得られた。

- (1) 柔道の授業の安全対策。授業に参加する生徒のほとんどが初心者であると推測されることから、 以下の結論を得た。①生徒の体力、実態を考慮して授業の内容を計画し、安全に実施していく こと。②足・足指部、手・手指部は入念なストレッチングとウォーミングアップを行うこと。③投技の 安全なかけ方と安全に配慮した受身の指導や練習が大切であること。④頸部の十分なストレッチ ングと頸部周辺の筋力トレーニングを行うこと。
- (2) 柔道の部活動の安全対策。部活動は授業よりも活動の頻度が多く、その運動負荷が強くかかると推測される。また、異学年が混在し、体格、体力、競技力に差のある部員同士がともに活動をしている形態があることから、以下の結論を得た。①本格的な競技活動の前に、基礎的な体力作りを行うこと。②指導者は部員の将来の競技活動に配慮し、活動内容を考慮すること。③学年、体

格、体力の差を考慮し、さらに、競技力の違いにも配慮するなど、工夫して練習をする必要があること。④指導者や部員は部活動が中学校の教育活動の範囲内であることを強く意識し、その範疇を逸脱するような過剰な活動は慎むこと。

スポーツ科学研究, 12, 84-100, 2015年, 受付日:2015年3月31日, 受理日:2015年9月1日 連絡先:藤澤健幸 〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町 3-10-13 Tm.0422-37-3818 t-fujisawa@th.seikei.ac.jp